

STAGE+を楽しむ(8)(HP 収載)
—ネルソンスのブルックナー7番—

1. 始めに

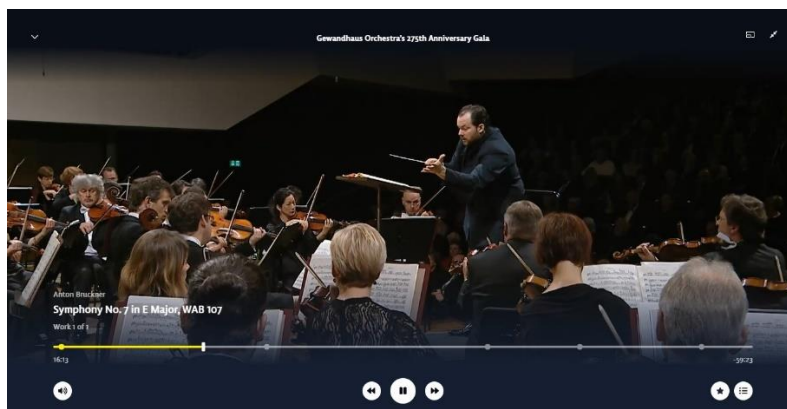
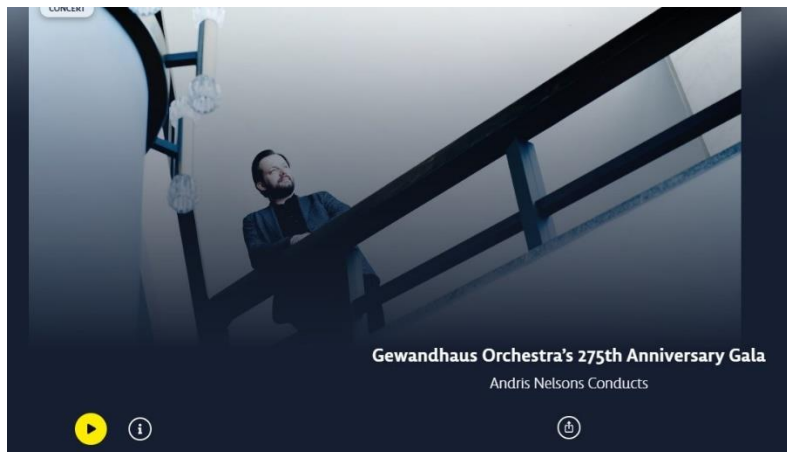
前報(7)に引き続き、STAGE+の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、直近に同じくアンドリス・ネルソンス指揮でベルリンフィルの演奏があったことから検索して、2018年3月11日収録の **Gewandhaus Orchestra's 275th Anniversary Gala** におけるアンドリス・ネルソンス指揮ライプチヒゲヴァントハウスのブルックナーの交響曲7番を選びました。

Anton Bruckner Symphony No. 7 in E Major, WAB 107

Andris Nelsons 指揮 Gewandhaus orchester Leipzig



STAGE+のサイトには下記のような解説があります。

“Only a few weeks into his new role as musical director, Andris Nelsons conducts a gala concert to mark the 275th anniversary of the founding of the Gewandhaus Orchestra Leipzig. One of the most important projects between the orchestra and Nelsons was a cycle of Anton Bruckner’s symphonies and it is his Seventh Symphony that is chosen here to mark the special occasion. Arguably his most famous composition, it was originally premiered in Leipzig in 1884, making it a fitting choice for the celebration. The slow movement is considered commemorative of Richard Wagner, who died during the work's composition and whose opera Lohengrin Nelsons conducted with sensational success in Bayreuth.”

上記に併せて、[放送ストリーミング情報\(2022No.269\)](#)で報告した本年12月11日収録の同じくアンドリス・ネルソンス指揮ベルリンフィルデジタルコンサートホールも再度再生し、聴き比べてみました。



3. 試聴の経過

ブルックナーの交響曲7番については放送ストリーミング情報(2022No.269)でも述べたとおりですが、このゲヴァントハウスの演奏も優れたもので、この曲の特徴が活かされています。

ゲヴァントハウスとベルリンフィルの音質の違いですが、繊細なディテールの表現では前者に歩があり、低音の響きの押出などは後者に歩があります。このような音質の差は、両者間のオーケストラの違い、ホールの違い、配信プラットフォームの違いの総合的な結果によるものと思われます。

4. まとめ

同じネルソンスの指揮で、ゲヴァントハウスとベルリンフィルによるブルックナーの交響曲7番の演奏を比較して視聴することができました。ともに演奏は甲乙つけ

がたいところですが、音質については、両者のオーケストラの違い、ホールの違い、配信プラットフォームの違いなどによる差を聴きとることができました。

以上